



## 子供 「待機児童ゼロ」 に向けた 保育所の新設を

### 「私の視点」

「上の子が入所している保育所に下の子が入れない」、「違う保育所だと送迎できない」との相談が寄せられた。「子育てするなら玉村町」の旗を守るときだ。

## 答弁（町長） 新たな保育施設を整備する予定である

問 待機児童の実態は。

答（町長） 11月1日現在において、いずれの保育所にも入れない国基準の待機児童数は10名、希望する保育所に入れられないなどの理由で空きを待っている、いわゆる隠れ待機児童は8名となっている。

問 保育所の新設計画は。

答（町長） 新たな保育施設を整備する予定であり、具体的な事業内容やスケジュールの精査を行うよう様々な検討を始めている。

### こども家庭センターの設置準備状況

問 「子育て世代包括支援センター」と「こども家庭総合支援拠点」を連携からより一歩進めるとともに、人材確保、設置場所等に十分配慮する必要があるのではないか。

答（町長） これまで別々に設置していた「子育て世代包括支援センター」と「こども家庭総合支援拠点」をこども家庭センター内に置くことで、職員が一体となり、切れ目なく対応する体制となるほか、スタートに合わせ、心理職を確保すべく募集も行っている。

設置場所については、子ども育成課、学校教育課と同フロア内に設置する。

問 町は、子供に関する相談窓口を一本化としてしているが、その実現に向けた支援体制を積極的に検討する必要があるのではないか。

答（町長） こども家庭センターでは、妊娠期から18歳まで切れ目ない支援を行う機能に加え、

「発達」に関する相談にも応じることができる「発達支援センター」機能や、いずれは「通級教室」機能も加え、子供に関する相談窓口を一本化すべく準備を進めている。

問 地域とのつながりを深めながら、庁内の連携強化により家庭・福祉・教育等が一体的に支援できる体制整備を確立する必要があるのではないか。

答（町長） 子ども育成課、健康福祉課、学校教育課の連携をより一層強化することはもちろんのこと、小中学校、幼稚園、保育施設や、中央児童相談所、伊勢崎保健福祉事務所、伊勢崎警察署などの関係機関との連携及び情報共有がこれまで以上に重要となるので、よりよい支援体制が構築できるよう、積極的に取り組んでいく。



待機児童問題を解消し、子育て世代が安心して働ける町を

### こんな質問もしています

・ 県央に位置する町として「地の利」を生かして元気な町を